

Gard Alert

ブラジルで黄熱病が急増



こちらは、英文記事「[Upsurge in yellow fever cases in Brazil](#)」（2018年3月15日付）の和訳です。

ブラジルに向けて航行する場合は、乗組員に黄熱病ワクチン接種を施し、蚊に刺されないよう対策するようにしてください。

[2018年1月31日付](#)のAlert記事の続報です。Gardのブラジルのコレスポンデント Representacoes Proinde Ltda からの情報によると、同国では黄熱病の発生が深刻な状況となっており、過去数カ月で致死例が大幅に増加し、疾患の発生地域が拡大しているとのことです。

黄熱病は、感染した蚊によって伝染します。この疾患は、アフリカ、中米、南米（ブラジルの一部地域、とりわけ北部と中西部で顕著）の熱帯地域に特有のものです。

黄熱病の典型的症状は、3～6日間の潜伏期間を経て発症する傾向があり、発熱（中等度）、著しい背中
の痛みを伴う筋肉痛、激しい頭痛、震え、食欲不振、吐き気もしくは嘔吐などが見られます。患者の約
15%は、より毒性の強い感染段階に進み、高熱、黄疸、嘔吐を伴う腹痛といった症状が見られます。よ
り重篤な感染状態となった感染者の半数は、数週間以内に死亡します。この疾患に一旦罹患すると、疾
患に対して長期持続効果のある免疫を得られるのが一般的です。

黄熱病は、極めて有効なワクチン（安全かつ低価格なもの）が予防手段としてあります。黄熱病は国際
保健規則（[IHR](#)）により、国によっては船員を含む旅行者の入国条件としてワクチン接種証明の提示が
義務付けられる疾患のリストに含まれています。黄熱病のワクチンは接種すると終生有効で、[WHOの
Q&A](#)にはワクチン接種証明についての役立つ情報が記載されています。

南米/ブラジルに向けて航行する船舶が講じるべき予防措置

Representacoes Proinde Ltda の [2018年3月14日付サーキュラー](#)によると、ブラジルの各港に向かう船舶は、船内の害虫駆除（蚊の根絶）と蚊の産卵場所になりやすい水だまりの除去を含む、効率的かつ十分に文書化された総合的ベクター（媒介生物）対策管理計画（IVM）に基づき、蚊媒介性疾患の未然防止策を講じるべきです。

現時点では、アンゴラまたはコンゴ民主共和国から到着する旅行者以外はブラジル入国時にワクチン接種証明は不要で、今日まで同国にいかなる旅行制限も貿易制限も適用されていませんが、ブラジルに寄港する船舶の乗組員は全員、ワクチンを接種した上で、WHO 標準に適合する国際ワクチン接種証明の発行を受けることを推奨いたします。リスクのある地域を示したマップと、黄熱病のワクチンに関する推奨事項が、WHO ITH のウェブサイト [Yellow fever vaccination recommendations in the Americas, 2018](#) に掲載されています。

黄熱病ウィルス対策として完全な防御手段はワクチンが唯一のものですが、蚊にさされないようにすることも、乗組員が蚊媒介性疾患に罹患しないための効果的な手段です。したがって、ブラジルに寄港中は、全乗組員に以下のことを周知徹底することが重要です。

- 蚊の活動ピーク時間を意識すること。多くの蚊は夕方から夜明けを活動ピーク時間としていますが、黄熱病ウィルスを媒介する蚊の一種であるネッタイシマカは、昼間に活動します。
- 虫よけ網のついた、あるいは空調管理された室内にできるだけ留まるようにすること。
- 昼間でも防護服を着用し、体全体をできるだけ覆うようにすること。
- 効果的な虫よけを露出している肌または衣服の上から使用すること（その際、製品ラベルの記載に従うこと）。
- 黄熱病の症状を把握しておき、感染の兆候が見られたら直ちに診療を受けること。

蚊媒介性疾患に罹患するリスクのある地域への入港前・寄港中・出港後に講じるべき予防措置については、Gard Insight「[蚊 - 世界で最も危険な生き物](#)」でも取り上げていますので併せてご覧ください。

本アラートは、Gard のコレスポンデント *Representacoes Proinde Ltda*（サントス）からの情報に基づいて作成したものです。

本情報は一般的な情報提供のみを目的としています。発行時において提供する情報の正確性および品質の保証には細心の注意を払っていますが、Gard は本情報に依拠することによって生じるいかなる種類の損失または損害に対して一切の責任を負いません。

本情報は日本のメンバー、クライアントおよびその他の利害関係者に対するサービスの一環として、ガードジャパン株式会社により英文から和文に翻訳されています。翻訳の正確性については十分な注意をしておりますが、翻訳された和文は参考上のものであり、すべての点において原文である英文の完全な翻訳であることを証するものではありません。したがって、ガードジャパン株式会社は、原文との内容の不一致については、一切責任を負いません。翻訳文についてご不明な点などありましたらガードジャパン株式会社までご連絡ください。